

さまざまな選択 その6

2020年度の卒塾生達の進路先を紹介させていただきましたが、最後はちょっと特殊な例となります。S君、T君の二人の紹介となりますが、S君は2020年度、T君は2018年度卒塾です。ただ、正確に言えば二人とも卒塾したとは言えません。実は中学途中で不登校となり、塾にも来られなくなったというわけです。クビになったわけでもなく、戻ってくるかもしれないという思いもありましたので、みんなと同じ卒塾生扱いにはなりませんでしたが、私の中では無事に卒塾して進んで行った塾生として位置づけておりますので書かせていただきます。

2月のある日、一本の電話がありました。「先生、以前塾に通っていたTです。覚えていらっしゃいますか？」と。忘れるはずがありません。2016年度、中1の3学期途中から不登校になり、塾にも来られなくなったT君のことはずっと気がかりでしたので、その名前を聞いた途端、うれしさがこみ上げました。「あんな形で塾を辞めてしまって申し訳ありませんでした。一度ご挨拶に伺いたいのですが。」一ハキハキとした話し方、張りのある明るい声、5年ぶりに聞いたT君の声は、私の中のもののかかっていた部分をくっきりと明るくしてくれました。

数日後、塾に顔を出してくれたT君は私の記憶の中のT君とは別人のように背が高く、おしゃれな好青年でした。男の子の思春期5年間は大変身します。彼は、中学卒業後名古屋のクラーク高校へ進学したこと、ここへは中学時代と打って変わり3年間ほぼ皆勤したこと、もともと人前に出ることが好きだったということもあり、生徒会、様々な行事の実行委員会、全てに参加して意欲的に取り組んだこと、そして愛知学院大学に進学が決まったことなどを元気いっぱい話してくれました。そして最後には、「ここで思考力をつけることができたので、おかげでその後にも大変役立ちました。」と、塾講師冥利に尽きるうれしい言葉も残してくれました。彼の元気な姿によって、私も心から元気になれました。感謝の気持ちでいっぱいです。

もう一人のS君は昨年卒塾したばかりです。中2の途中まで塾に通ってくれました。成績優秀で学校外でもプログラミングを習っていたということもあり、通信と通学の両コースあるN高等学校へと進学を決めました。ここでは好きな時に好きな場所で好きな事を学習していくことができます。学びを深めたいS君には最適でした。卒業後、挨拶に来てくれて渡してくれた花束には、感謝の言葉とともに彼自身が考えたという「希望の春」というメッセージカードが添えられていました。前を向いている限り、みんなの歩く道の先には必ず希望があります。立ち止まっても大丈夫だと二人から教えられました。前を向き一歩進みましょう。希望の春です。